

◆ **今週のコメント** (感染地域、感染経路については推定を含みます。)

- ・ **アメーバ赤痢(腸管アメーバ症)**の報告が1例(40歳代男性)(第38週追加報告分)あり、症状は下痢及び粘血便です。本年の累積報告数は9例となりました。
- ・ **クロイツフェルト・ヤコブ病**の報告が1例(70歳代男性)ありました。症状は進行性認知症、錐体外路症状、視覚異常、記憶障害、精神・知能障害で、感染地域及び感染経路は不明です。本年の累積報告数は2例となりました。
- ・ **劇症型溶血性レンサ球菌感染症**の報告が1例(70歳代男性)(第38週追加報告分)あり、症状はショック、腎不全、DIC、軟部組織炎、全身性紅斑性発疹です。感染地域は国内で、感染経路は創傷です。本年の累積報告数は7例となりました。
- ・ **侵襲性肺炎球菌感染症**の報告が3例(10歳未満男性、70歳代男性及び10歳未満女性各1例)ありました。いずれも感染地域は国内です。本年の累積報告数は56例となりました。
- ・ **梅毒**の報告が2例(10歳代男性及び10歳代女性)(第27週及び第37週追加報告分)ありました。いずれも感染地域は国内で、感染経路は性的接触です。本年の累積報告数は50例となりました。
梅毒の感染経路はほとんどが性的接触です。不特定多数との性的接触を避け、コンドームの使用などの予防策をとってください。重症化及び感染拡大を防ぐためには早期発見、早期治療が非常に重要です。
梅毒の感染経路や治療、予防等に関しては、下記ホームページを御覧ください。
○京都市情報館「京都市衛生環境研究所にゅーす(平成29年度第1号)「性感染症」って何？」
<http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/cmsfiles/contents/0000175/175313/29-1.pdf>
- ・ **A群溶血性レンサ球菌咽頭炎**の定点当たり報告数は1.51(65例)となり、前週1.00(43例)から増加しています。第35週以降、第38週を除いて流行閾値(それ以上報告数が増えたら確率的に非常に多いと考えられる値)を上回って推移していますが、現在は大きな流行と言える状態ではありません。
- ・ **伝染性紅斑**の定点あたり報告数は0.74(32例)で、前週0.72(31例)とほぼ同じでした。依然として過去5年平均値及び流行閾値を上回っています。京都市全体としては警報レベルとは言えませんが、発生動向に注意が必要です。

◆ **今週のトピックス: <インフルエンザ>**

今週の京都市のインフルエンザ定点当たり報告数は0.67(47人)でした。前週は0.72(50人)であり、現状では流行の目安である定点当たり報告数「1.0」を越えていません。詳細をトピックスに掲載しています。

◆ **発生状況**

全数把握の感染症

- ・ **二類:結核 10例**(肺結核 4例, その他結核 3例, 潜在性結核感染者 3例)うち喀痰塗抹陽性 1例
【1月以降の累積報告数 235例(肺結核 102例, その他結核59例, 潜在性結核感染者 74例)うち喀痰塗抹陽性 48例】
- ・ **五類:アメーバ赤痢 1例**【1月以降の累積報告数 9例】
- ・ **五類:クロイツフェルト・ヤコブ病 1例**【1月以降の累積報告数 2例】
- ・ **五類:劇症型溶血性レンサ球菌感染症 1例**【1月以降の累積報告数 7例】
- ・ **五類:侵襲性肺炎球菌感染症 3例**【1月以降の累積報告数 56例】
- ・ **五類:梅毒 2例**【1月以降の累積報告数 50例】

定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点69, 小児科定点43, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ	インフルエンザ	0. 68	47
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	2. 26	97
	② RSウイルス感染症	1. 88	81
	③ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1. 51	65
	④ 手足口病	0. 88	38
	⑤ 伝染性紅斑	0. 74	32
眼科	流行性角結膜炎	0. 10	1

【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス: <インフルエンザ>

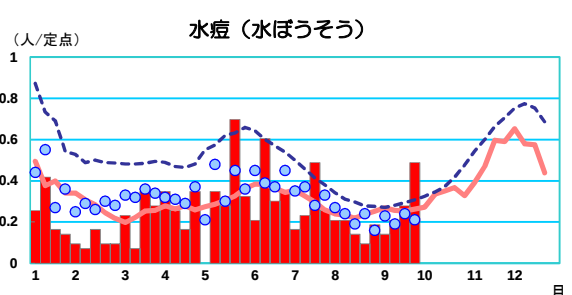
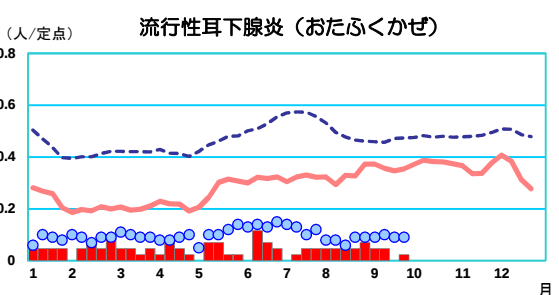
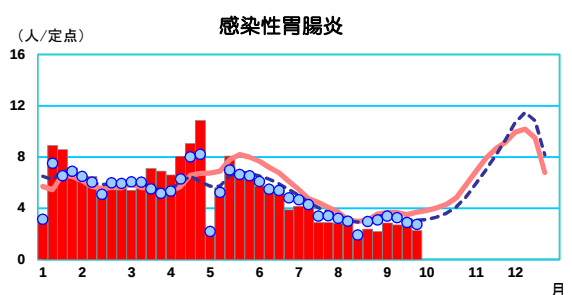
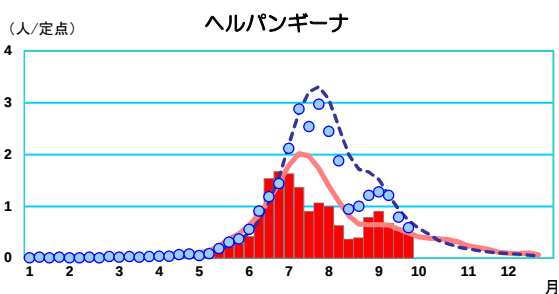
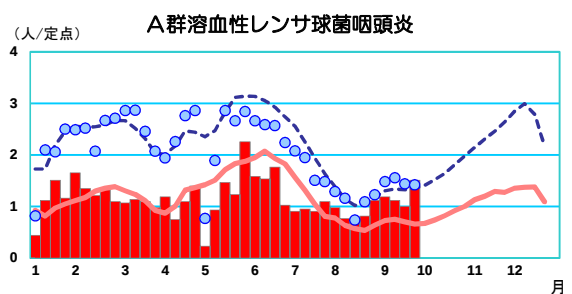
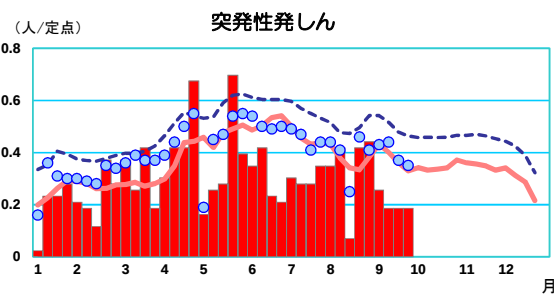
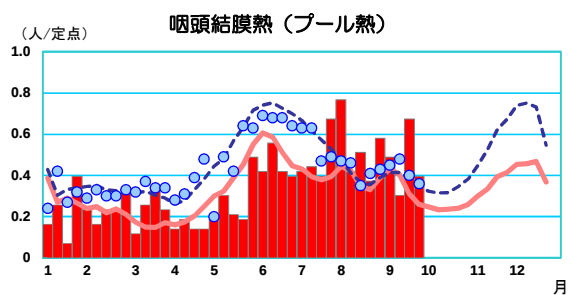
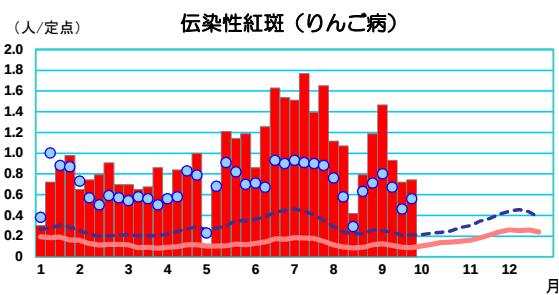
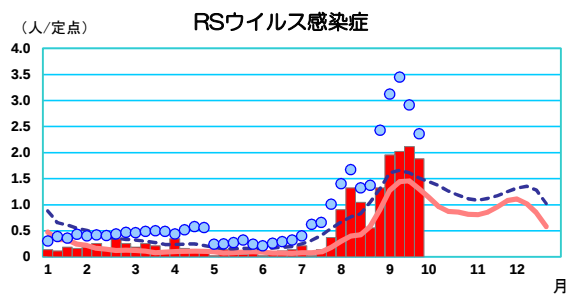
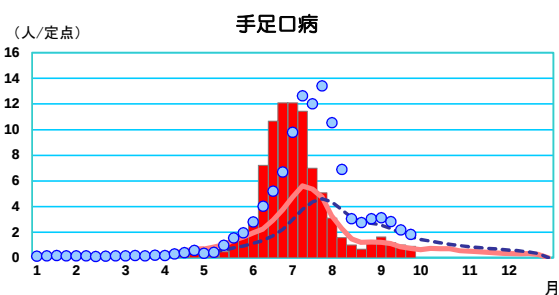
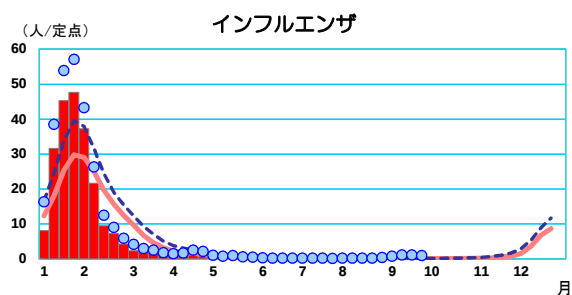
付表(疾病, 行政区別報告数 / 年齢階級, 疾病別報告数 / 週, 疾病別報告数)

(注) 京都市のデータは、2019年10月3日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。

また、本情報での患者数は、届出医療機関所在地での集計で、患者の住所を示すものではありません。

※ 感染地域及び感染経路については推定を含みます。

インフルエンザ及び小児感染症の疾病別推移グラフ（2019年）



第39週(9月23日～9月29日)トピックス: <インフルエンザ>

今週の京都市のインフルエンザ定点当たり報告数は0.68(47人)でした。前週は0.72(50人)であり、現状では流行の目安である定点当たり報告数「1.0」を超えていません。

今週の全国の定点当たり報告数は、0.92(4543人)と先週の1.16(5716人)よりわずかに減りました。過去5年の全国平均を見ると、「1.0」を超えるのは第47週(図1)ですが、本シーズンは先週(第38週)に超えました。

今週の都道府県別定点当たり報告数は、石川県、福岡県、佐賀県、大分県、鹿児島県が「1.0」を超えています。特に沖縄県は警報開始の目安である「30.0」を超え大流行となっています(図2)。

そこで、全国、京都府及び沖縄県について過去5年の定点当たりの報告数の推移を見ると、今シーズンの沖縄県の推移が例外的であることが示唆されます(図3)。

インフルエンザの予防策としては手洗い、うがいなどの一般的な衛生行動が重要です。予防接種は10月中旬以降から始まります。

なお、インフルエンザワクチンは、そのシーズンに流行するインフルエンザウイルスの「型」を予測して作られており、約5箇月しか効果が持続しないため、毎年接種する必要があります。13歳以上の接種は1回または2回とされていますが、医師が特に必要とする場合を除いては1回でよいとされています。任意接種のため、費用は自己負担となります。接種の詳細はかかりつけの医療機関でご相談ください。

図1京都市及び全国の定点当たり報告数の推移

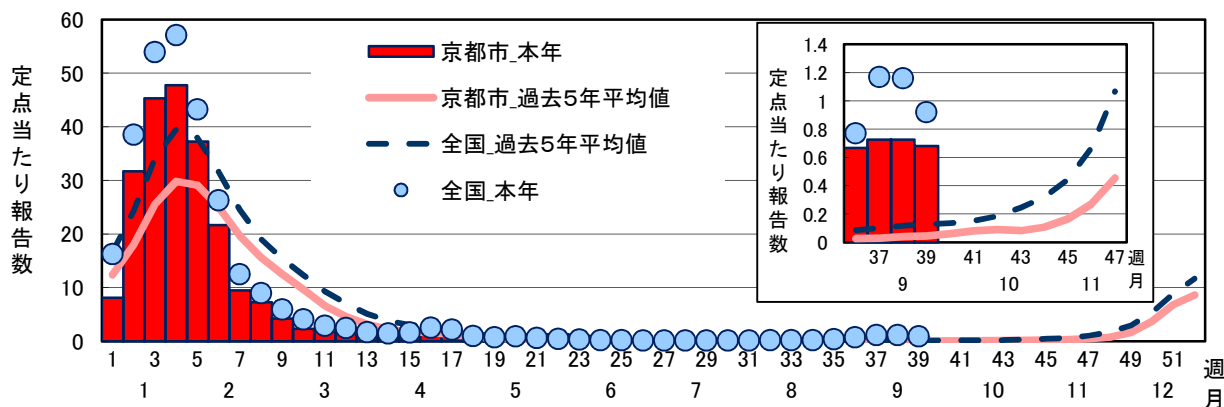


図2 39週の都道府県別定点当たり報告数

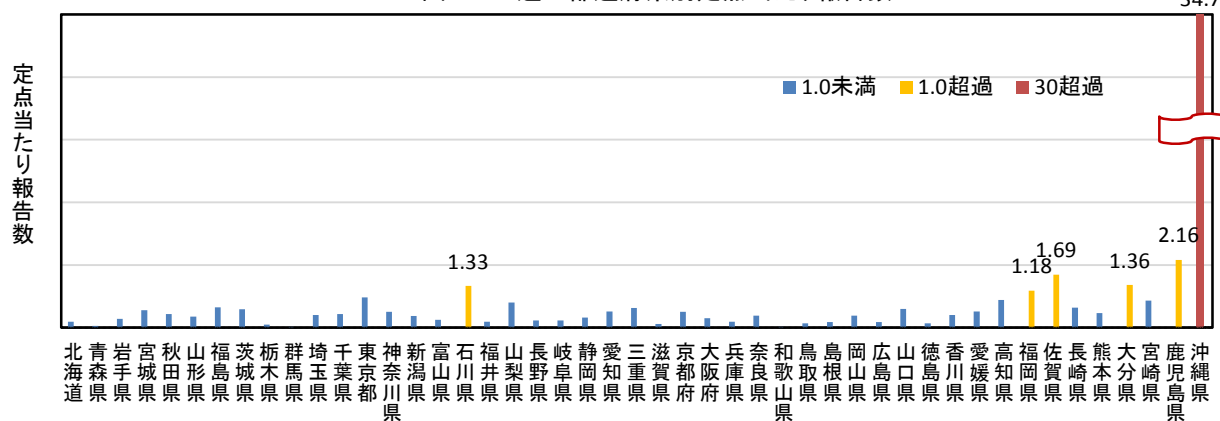
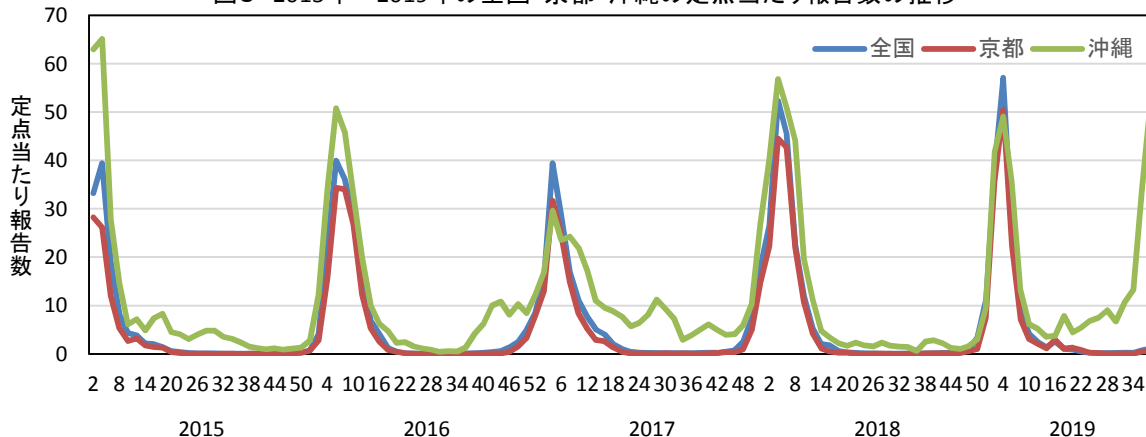


図3 2015年～2019年の全国・京都・沖縄の定点当たり報告数の推移



T3202

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:2019年第39週

年齢階級, 疾病別報告数

2019年9月23日～2019年9月29日

データ入手日:2019年10月3日

京都市	年齢1 年齢2 年齢3 年齢4	総数 総数 総数 総数	～5ヶ月 ～5ヶ月 ～5ヶ月 0歳	～11ヶ月 ～11ヶ月 ～11ヶ月 1歳～	1歳 1歳 1歳 5歳～	2歳 2歳 2歳 10歳～	3歳 3歳 3歳 15歳～	4歳 4歳 4歳 20歳～	5歳 5歳 5歳 25歳～	6歳 6歳 6歳 30歳～	7歳 7歳 7歳 35歳～	8歳 8歳 8歳 40歳～	9歳 9歳 9歳 45歳～	10歳～ 10歳～ 10歳～ 50歳～	15歳～ 15歳～ 15歳～ 55歳～	20歳～ 20歳～ 20歳以上 60歳～	30歳～ 30歳～ 30歳～ 65歳～	40歳～ 40歳～ 40歳～ 70歳以上	50歳～ 50歳～ 50歳～ 50歳～	60歳～ 60歳～ 60歳～ 60歳～	70歳～ 70歳以上 70歳～ 70歳以上	80歳以上
男女合計																						
インフルエンザ (※1)	年齢1	47	－	1	2	2	2	1	4	8	1	2	2	13	1	2	2	2	－	－	－	2
RSウイルス感染症	年齢3	81	13	13	32	15	5	2	1	－	－	－	－	－	－	－						
咽 頭 結 膜 熱		17	－	－	5	4	2	3	2	1	－	－	－	－	－	－						
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		65	1	－	4	6	4	5	8	6	8	10	2	6	－	5						
感染性胃腸炎		97	3	7	10	10	10	5	7	6	7	5	7	12	2	6						
水 痘		21	－	1	－	3	2	4	4	1	3	1	1	1	－	－						
手 足 口 病		38	1	4	8	6	6	4	2	3	1	1	－	2	－	－						
伝 染 性 紅 斑		32	－	－	2	3	7	2	4	5	3	2	1	2	－	1						
突発性発しん		8	－	3	4	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－						
ヘルパンギーナ		20	－	－	5	4	4	2	－	1	－	1	2	1	－	－						
流行性耳下腺炎		1	－	－	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－						
急性出血性結膜炎	年齢2	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
流行性角結膜炎		1	－	－	－	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
細菌性髄膜炎 (※2)	年齢4	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－				
無菌性髄膜炎		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－				
マイコプラズマ肺炎		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－				
クラミジア肺炎 (※3)		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－				
感染性胃腸炎 (※4)		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－				

年齢階級, 疾病別定点当り報告数

京都市	年齢1 年齢2 年齢3 年齢4	総数 総数 総数 総数	～5ヶ月 ～5ヶ月 ～5ヶ月 0歳	～11ヶ月 ～11ヶ月 ～11ヶ月 1歳～	1歳 1歳 1歳 5歳～	2歳 2歳 2歳 10歳～	3歳 3歳 3歳 15歳～	4歳 4歳 4歳 20歳～	5歳 5歳 5歳 25歳～	6歳 6歳 6歳 30歳～	7歳 7歳 7歳 35歳～	8歳 8歳 8歳 40歳～	9歳 9歳 9歳 45歳～	10歳～ 10歳～ 10歳～ 50歳～	15歳～ 15歳～ 15歳～ 55歳～	20歳～ 20歳～ 20歳以上 60歳～	30歳～ 30歳～ 30歳～ 65歳～	40歳～ 40歳～ 40歳～ 70歳以上	50歳～ 50歳～ 50歳～ 50歳～	60歳～ 60歳～ 60歳～ 60歳～	70歳～ 70歳以上 70歳～ 70歳以上	80歳以上	
男女合計																							
インフルエンザ ^{※1)}	年齢1	0.68	－	0.01	0.03	0.03	0.03	0.01	0.06	0.12	0.01	0.03	0.03	0.19	0.01	0.03	0.03	0.03	－	－	－	0.03	
RSウイルス感染症	年齢3	1.88	0.30	0.30	0.74	0.35	0.12	0.05	0.02	－	－	－	－	－	－	－							
咽 頭 結 膜 熱		0.40	－	－	0.12	0.09	0.05	0.07	0.05	0.02	－	－	－	－	－	－							
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		1.51	0.02	－	0.09	0.14	0.09	0.12	0.19	0.14	0.19	0.23	0.05	0.14	－	0.12							
感染性胃腸炎		2.26	0.07	0.16	0.23	0.23	0.23	0.12	0.16	0.14	0.16	0.12	0.16	0.28	0.05	0.14							
水 痘		0.49	－	0.02	－	0.07	0.05	0.09	0.09	0.02	0.07	0.02	0.02	0.02	－	－							
手 足 口 病		0.88	0.02	0.09	0.19	0.14	0.14	0.09	0.05	0.07	0.02	0.02	0.02	－	0.05	－	－						
伝 染 性 紅 斑		0.74	－	－	0.05	0.07	0.16	0.05	0.09	0.12	0.07	0.05	0.02	0.05	－	0.02							
突発性発しん		0.19	－	0.07	0.09	0.02	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－							
ヘルパンギーナ		0.47	－	－	0.12	0.09	0.09	0.05	－	0.02	－	0.02	0.05	0.02	－	－							
流行性耳下腺炎		0.02	－	－	0.02	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－							
急性出血性結膜炎	年齢2	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
流行性角結膜炎		0.10	－	－	－	0.10	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
細菌性髄膜炎 ^{※2)}	年齢4	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－					
無菌性髄膜炎		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－					
マイコプラズマ肺炎		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－					
クラミジア肺炎 ^{※3)}		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－					
感染性胃腸炎 ^{※4)}		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－					

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。

T3203

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:2019年第39週

週, 疾病別報告数

データ入手日:2019年10月3日

京都市	男女合計	5週前	4週前	3週前	2週前	1週前	今週
インフルエンザ (※1)		5	6	46	50	50	47
RSウイルス感染症		24	57	84	87	91	81
咽 頭 結 膜 熱		16	25	21	13	29	17
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		35	48	51	48	43	65
感染性胃腸炎		102	94	123	116	116	97
水 痘		4	8	6	9	12	21
手 足 口 病		29	47	70	50	43	38
伝 染 性 紅 斑		34	51	63	40	31	32
突発性発しん		18	19	11	8	8	8
ヘルパンギーナ		17	34	39	29	23	20
流行性耳下腺炎		2	3	2	2	－	1
急性出血性結膜炎		－	－	－	－	－	－
流行性角結膜炎		7	6	6	9	1	1
細菌性髄膜炎 (※2)		－	－	－	－	－	－
無菌性髄膜炎		－	－	－	－	－	－
マイコプラズマ肺炎		－	－	－	－	－	－
クラミジア肺炎 (※3)		－	－	－	－	－	－
感染性胃腸炎 (※4)		－	－	－	－	－	－
合 計		293	398	522	461	447	428

週, 疾病別定点当たり報告数

京都市	男女合計	5週前	4週前	3週前	2週前	1週前	今週
インフルエンザ (※1)		0.07	0.09	0.67	0.72	0.72	0.68
RSウイルス感染症		0.56	1.33	1.95	2.02	2.12	1.88
咽 頭 結 膜 熱		0.37	0.58	0.49	0.30	0.67	0.40
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		0.81	1.12	1.19	1.12	1.00	1.51
感染性胃腸炎		2.37	2.19	2.86	2.70	2.70	2.26
水 痘		0.09	0.19	0.14	0.21	0.28	0.49
手 足 口 病		0.67	1.09	1.63	1.16	1.00	0.88
伝 染 性 紅 斑		0.79	1.19	1.47	0.93	0.72	0.74
突発性発しん		0.42	0.44	0.26	0.19	0.19	0.19
ヘルパンギーナ		0.40	0.79	0.91	0.67	0.53	0.47
流行性耳下腺炎		0.05	0.07	0.05	0.05	－	0.02
急性出血性結膜炎		－	－	－	－	－	－
流行性角結膜炎		0.70	0.60	0.60	0.90	0.10	0.10
細菌性髄膜炎 (※2)		－	－	－	－	－	－
無菌性髄膜炎		－	－	－	－	－	－
マイコプラズマ肺炎		－	－	－	－	－	－
クラミジア肺炎 (※3)		－	－	－	－	－	－
感染性胃腸炎 (※4)		－	－	－	－	－	－
合 計		7.31	9.66	12.20	10.97	10.03	9.62

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。